

会 議 録 (概要)

会 議 の 名 称	佐渡市子ども・子育て支援会議
開 催 日 時	令和5年(2023)10月24日(火)14:00 開会
場 所	金井コミュニティセンター 1階 大会議室
議 題	① 令和4・5年度佐渡市子ども・子育て支援事業評価について ② 第3期佐渡市子ども・子育て支援事業計画について ③ その他
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出 席 者	参加者 有識者・子育て中の親 16人 事務局 佐渡市社会福祉部 子ども若者課 課長 余湖雅美 課長補佐 橋本和樹 子ども若者相談センター センター長 田村京子 園児支援係 調査員 菊地ひとみ 子育て支援係 係長 鍵谷 卓 子育て支援係 主任 丹穂沙耶香
会 議 資 料	(事前送付) ・ 令和4年度・5年度佐渡市子ども・子育て支援事業評価票 (当日配布) ・ 第2期 佐渡市子ども・子育て支援事業計画(概要版) ・ 第3期 佐渡市子ども・子育て支援事業計画
傍 聴 人 の 数	0人
備 考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
事務局	<p>【令和4・5年度佐渡市子ども・子育て支援事業評価について】</p> <p>○令和4・5年度佐渡市子ども・子育て支援事業評価票について、施策の体系の4つの基本目標の計画、実行、評価、改善について説明を行い、その後、令和4年度事業について評価が妥当であったかどうか審議していただき、いただいた意見等については、今後の子ども・子育て支援事業の事業内容、事業対象等の具体的な行動計画に反映させる。</p> <p>【質疑応答】</p> <p>(1・子育て)</p>
A氏	<p>○子育てのキャリア教育推進事業について、多くの人はキャリアという意味を職業のキャリアと理解することが多いです。文科省によりますと、社会的、職業的自立をする、その社会的自立については、この事業内容の言葉とおりに地域を学ぶことが含まれておりますので、達成率が◎になっていきます、量的にはそうかもしれませんが、形成的な意味では◎ではない気がします。そう意味で、次年度以降についてはそこをもっと配慮していただきたいのが私の希望です。</p>
事務局 鍵谷係長	<p>○関係課と調整しまして、来年度取り組めるように進めてまいります。</p>
B氏	<p>○キッズお仕事体験（職業講話）、とても良いと思います。特に佐渡は起業が必要だと思います。若い人たちに夢を与えることができますので、南佐渡中学校だけでなく、全島の中学校でやっていただけたらと思います。</p>
事務局 余湖課長	<p>○今回それぞれの担当課の出席が叶わなかったものですから、私共でご意見をお伺いしまして、実現に向けて担当課と協議していくということで進めていきたいと思っています。ありがとうございます。</p>

C 氏	<p>○2枚目の資料の園巡回支援事業をしっかりとやっていただいています、他の地域では5歳児健診をやっているところもあります。これが佐渡では5歳児健診の代わりになると思います。そういう意識を持って、発達についても遠城寺式という簡単な発達の指標がありますので、そういったものも使って5歳児健診という意識を持ってやっていただけるとありがたいし、サポトレをやっていただいておりますが、それを保育園のほうでも技術をマスターしていただきたい。特にお願いしたいのは、ダメ出しではなく良いところを褒めて、25%でもできていたら褒めるということをぜひ実行していただきたいと思います。</p> <p>その下の、子どもが元気な佐渡島（たからじま）の条例ができましたが、ここで一番言いたかったのは、社会全体で子育てを担当するということだったのですが、この基本目標の1にその言葉がないのでぜひ入れていただきたいと思います。</p>
事務局 田村センター長	<p>○ありがとうございます。園巡回を巡回支援専門員によりやらせてもらっていて、そこから、「じゃんぷ」や「さくらんぼ」の療育教室に繋がっていないお子さんも、身近ないつもいる保育園で具体的に巡回支援専門員の方が相談に乗ってくれていて、保育士達もそこで力を付けて安心して子供と向き合うことができる良い機会になっております。</p> <p>佐渡市では5歳児の健診を実施していませんが、10月・11月にかけて4歳児の育ちの調査というものを、園巡回の方で保育園・幼稚園・こども園等の協力をいただいてやらせていただいております。C氏が言われるように、発達の指標も取り入れていけるように、また、保育園等の先生方が子どもの発達に合わせた支援ができるように併せてやっていきたいと思います。</p>
事務局 余湖課長	<p>○子どもが元気な佐渡島（たからじま）条例の方ですが、条例は策定したところですが、まだなかなか浸透していない状況であります。私共も周知の不足を感じているところですので、C氏のおっしゃるとおり、佐渡市全体で子育てを進めていくということで周知に力を入れていきたいと思っております。</p>
D 氏	<p>○心の教室相談員の配置というところが、毎回小学校に配置が至らなかったというところで、中学校での対応はできているようですが、小学校での対応ができていないことが気になります。中学校1年生に入ってなかなかリズムに乗れず不登校気味になっているお友だちを見ている中で、小学校</p>

のうちから対応していただけると良かったのではないかなと思うところがあるので、小学校での配置もぜひお願いしたいと思います。

2点目、給食の話です。いろいろな取り組みをしていただいて、地産地消などで給食のことをしっかり考えてくださりありがたいのですが、現状中学校では給食時間がとても短いです。給食センターの方のお話を聞いていると、とても手の込んだメニューを作っても、ほとんど手が付いていないような状態で返ってくる状態で、非常に作り甲斐がないというか、作ったのに食べてもらえなかったというところ。子どもたちの話を聞くと、食べる時間が短くて食べられないということで、食育は大事なことだと思いますし、いろいろな取り組みをしていただいている中で、とてももったいないと思います。また、家庭の状況によっては、給食の時間が栄養源になっているところもあると思いますので、ぜひしっかり給食の時間をとっていただいて食べさせてもらえる環境づくりをしてもらえたらよいと思います。

地域と連携ネットワークというところで、私もCSのコミュニティースクールのメンバーに入っていますが、設置はされていて会議はしているけれど、実際これって何なのという状況が続いています。参加されている方はもちろんですが、周りの方にも全然理解をしていただけない活動になっている。会議をしている実績はありますが、実際自分たちが進めていきたいことと状況がかみ合っていないところがあるので、会議を開けば◎ということではなく判断していただけるとよいと思います。

次に、ICTの整備事業で、今後機器の入れ替え更新で検討事項が出てくるというところですが、小学生の荷物が大変重たい中で、今回一人1台渡された機器が非常に重かったというのが小学生の親たちからの声で、もう少し軽いものにできなかつたのかなというところが多くありました。非常に高価なものなので、子どもたちに大事に使ってもらいたいところですが、荷物が重い子どもたちの今の問題の中で、軽量化も検討事項に入れていただけたらよいと思います。

最後に市展です。今年も見に行かせていただきましたが、参加している学校と参加していない学校の差の大きさが気になりました。どちらの地域から来られた方かわかりませんが、自分の地域の子どもの作品がないと見学の方たちがおっしゃっていたので、そのあたりも一律で出てくるような形、市全体で子どもたち全体、学校全体で盛り上がっていただけるような市展の進め方をしていただけるとありがたいと思います。

長	<p>の形で回答を返すということで用意をしたいと思いますので、よろしく お願いいたします</p>
E 氏	<p>○毎年言ってるいのは無いかと思うのですが、妊婦保健指導のところ ですが、パパママセミナーが初産の方を対象になっています。実際子育て をしていると、2人目でも3人目でも学びたいことはたくさんあるし、 仲間づくりという面では初産だけではないので、初産だけというのはな ぜなのかなとお聞きしたいです。</p>
事務局 田村セ ンター長	<p>○担当課と違いますが、昨年度、健康医療対策課にいたのでこの回答でよ いと思いますが、コロナ禍になってしまい、対象人数を絞らせてもらっ たのが一番大きなところ。その前は、おっしゃるように仲間づくり というところを大切にして妊婦同士、また妊婦さんと旦那さんも一緒に 来てくれる方もいるので、みんなでこれから子どもを育てていこうとい う交流の場になるようにというところを意識してやっていたのがコロナ 前でした。なので、今は初産に絞っていますが、今度はその枠を広げ て、それでもお呼びできる数の制限はあるので、初産の方が優先になる 部分もあるかもしれませんが、枠を広げて取り組めるようにしていきたい ということをおっしゃっていました。以上です。</p> <p>(2・親育ち)</p>
A 氏	<p>○ペアレント・トレーニングの話になりますが、基本目標1の中にもある、 親子で学べるとか、そういうものを全部含めてやってほしいところです。 また、親育ちの問題は2つあります。男性の子育て参加について、目標の 中にもっと明確に入れてよいのではないかと。施策カテゴリーの中に入れて できる限り明示的に目標化していただきたいと思います。</p> <p>それと特に佐渡の場合大事な話は、親の親の世代の親育ちが大事で、今 子どもが育っている環境と、昔我々世代やもっと上の世代と全く違うの で、そういうことが理解してもらえる地域づくりが大事だと思うので、 親の親育ちも念頭に置いて、特にこれから第3期に向けて大事になると 思いますので、そこも意識していただきたいと思います。</p>
事務局 田村セ ンター長	<p>○ありがとうございます。男性の子育て参加、おじいちゃん、おばあちゃ ん世代の親育ち、どちらも大事なことだと思うので、そのように明記で きるとよいと思います。特に私も日頃、子ども若者相談センターにおい</p>

C 氏	<p>て、旦那さんの協力、またおばあちゃんの存在の大きさ、大切さというものを身にしみて感じているところでもありますので、ここのところが反映できるようにやっていきたいと思います。</p> <p>○NPプログラム、これはすごく大事だと思います。ハッピーママになるための子育て講座とありますが、パパが大事だと思います。以前パパもやって結構よかったという話も聞きましたが、お父さんたちも好きなことを言い合える場所を作ってもらって、産後クライシスとってお産のあと関係が気まづく場合も多いし、1/3くらい離婚もありますので、そういったことも予防できるようにお父さんたちにも言いたいことを言ってもらうことを進めていただければと。参加人数が100人になっていますが、どんどん増やして目標を高くして増やしていただければよいと思います。</p> <p>あと、最後の男女共同参画事業ですが、ぜひ市役所のお父さんたちから育休をとっていただけるとありがたいです。見本を示していただいて、何%やりましょうという形で半分強制でよいと思いますが、ぜひパパに育休をとってもらいたいと思います。</p>
事務局 田村センター長	<p>○令和4年度、5種類のNPプログラムをやらせていただきました。その中で、C氏のおっしゃるように頑張るパパさん講座というものがありませんでした。それを実施してくださったのがF氏、2年間頑張るパパさん講座をやってみて、パパさん達はママに言えない、家事を協力したいけど手を出すとやり方が違うと怒られるとか、でも協力ではないんだというところをパパたちの気持ちを汲み取ってパパたちも言いたいことを言ってくれました。F氏からも一言いただけますでしょうか。</p>
F 氏	<p>○パパさん講座とても楽しくやっています。集まってくださる方は、やっぱり家事を一生懸命やっている方が多くて、自分ほど協力している人はいないだろうと集まるとそんなものではなかった、まだまだだという人が多くて、そうではない方にもっと引っ張って来てもらいたいと思いますが、本当にパパさんは頑張っているのが感想です。その中で、ママを傷つける地雷の言葉などを私が教えるのではなく、お父さん同士で話し合っていてやっています。お父さん同士は、育児については職場ではできないので、こういう場があるとすごくいいなと言って喜んでいました。職種の違う同士が大体盛り上がり飲み会しようと言います。1・2回するとその後どうなっているかなと感じられますが、協力ではなく家事を分</p>

	<p>担するのは当たり前という基本姿勢でやっています。今後は一生懸命頑張っているパパではなく、そうではないパパにも来てもらいたいと思います。またもう少し話しを聞いてみると、そこでつるし上げにされるのが嫌だから行きたくないというパパが多かったので、同じ気持ちのお父さんたちが集まっているということを伝えれば来てくれるかもしれないと思っています。以上です。</p>
E 氏	<p>○子育て支援の情報誌は必要だと思います。IUターンが増えてきているので、そういう人たちがふと手に取ることができるものはすごく大事だと思いますので、重要なところだけでも構いませんので、佐渡市の支援ということだけではなく、佐渡市の子育てにはこういう良いところがあるというパンフレットのようなものがあるとよいと思います。</p> <p>子育て、親育ち学級ですが、私はNPと子育て・親育ち学級の両方を担当させていただいておりますが、内容的にかなりかぶるところがあります。社会教育課の方と子ども若者課がもう少し連携して、1つのものを作り上げてよいのではなかと思う内容もあります。なので、1つに絞るとは言いませんが、お互いに合体できるようなプログラムがあるとよいと思いました。</p> <p>男女共同参画ですが、男女共同参画でも委員をしております、そこでつらい立場になることが正直何度もあります。男女共同参画というと、お父さんが家事をしない、育児をしないことをみんなで議論する場だと考えている方がいます。そうではなく、いろいろな面で、人権やLGBTももちろんですし、働き方というところで色々な働き方があるからお父さんは仕事を休みにくいということがあるのだということを考える大切な場になっています。そうすると、1つの課、啓発課だけでなく産業課や子育て関連の課などが共同してやっていただけると、すごくやりやすいと常に考えています。そのへんもよろしく願いいたします。</p>
事務局 余湖課長	<p>○情報誌に関しては以前からお話をお伺いしております、デジタルがよいのか冊子がよいのか検討中です。移住交流推進課ともいろいろ話をしながら、移住して来た方にも何かしらの情報は必要というところでまた考えたいと思います。</p> <p>男女共同参画はいろいろな課が入って、担当者の打ち合わせ会議を持っていますが、最近少なめになっていると思います。おっしゃるとおり子育てという部分には、どうしても働き方というところがかなり重要なウエイトを占めていて、人権もそうですが、産業などの他課と連携しなけ</p>

<p>A 氏</p>	<p>ればいけないと思っています。庁舎内でもいろいろな意見交換ができるような機会を作っていきたいと思います。</p> <p>(3・地域育ち)</p> <p>○地域育ちについては、社会教育課との連携が大事になってくると思いますし、社会教育委員としてもいろいろ関わりたいと思いますので、是非しっかりやっていただきたいと思います。</p> <p>地域育ちの中で気になったところは、(4)安心して外出できる環境の整備の2番目、子どもがつなぐ地域の居場所づくり事業について、令和3年度をもって補助事業廃止とありますが、子どもの居場所づくりは大変大事な問題で、この前勉強会があり、団体 K の方々が新しい居場所づくりをするとか、地域食堂 L とかそういう場所を作ろうとして、団体 K の場合は日本財団から助成金が出て実現しましたが、あれが切れたらどうしようと今から悩んでいるわけです。そうすると、この補助プログラムがあることが非常にサポートになると思いますので、廃止とにならないように、今後も検討する方向でぜひ留意いただきたい。それは地域の活力をそがない方向に行政と一緒に仕事ができると思うので、引き続きご検討いただきたいと思います。</p> <p>それから、学校・家庭・地域の連携促進事業も、学校教育の場では、先生方の働きすぎが問題でとても大事になってくるので、学校をサポートする体制として子育てにどう関わっていくかということであると思います。社会教育課では、ジオパーククラブというものを作り、放課後の授業をジオパーク推進員の方が課外授業としてサポートすることを今年度から始めています。こういったこともこの中に入ることだと思っておりますので、他課でやっていることもこういう目標の中に加えていただければありがたいと思います。</p>
<p>事務局 余湖課長</p>	<p>○居場所づくりの関係ですが、なかなか手挙げする団体が無いことから補助事業を廃止した経緯がございます。今後補助していくにあたっては、お金の面なのか、それとも他の補助の仕方があるのか検討していくところありますので、皆様からご意見を伺いながら検討を進めたいと思っております。</p> <p>ジオパークの関係です。こちら4年5年の評価と目標ということで挙げてございますが、こちらは担当課にご意見等お返ししまして、今後こちらを加えていくような形でやっていきたいと思っております。</p>

C 氏	<p>○ここが社会による佐渡全体で子どもを育てるといふところのポイントだと思いますが、今時3歳児神話というのを信じている方はいらっしゃると思いますが、でもまだお年寄りの中にはいるかもしれませんが、3歳までは家で見るべきだと昔はありました。昔は子どもを取り巻く人がいっぱいいました。子どもも大人もおじいちゃんおばあちゃんもいっぱいいたからそれでよかったかもしれませんが、今は集団保育のような、人と接する機会が多い方がよいとされています。ただ多ければよいわけではなくて、そこにはサポートが必要で、適切な社会性を身につけられるような介入が必要になってきます。保育事業で2人目からお金を出すとか、まだ制限があるように感じますが応援していただきたいと思ひます。放課後児童クラブもそうですが、6年生までよいはずなのですがなかなか受け入れてもらえないという話も聞きますので、預けたい人は預けていただく、預けられた限りはちゃんとした環境を準備する、質を保証する。保育は教育の概念がありませんでしたが、最近乳幼児教育ということで、保育園も目指すべき10の姿というのが出ています。こういう子どもを育てようというのが出ていますので、それを目指して、教育的な観点を持って子どもに関わっていただきたい。ただ預かるだけではない。保育にかける家庭の子どもをただ預かる、安全に預かるというのが最初の保育の目標でしたが、今は違ひます。発達する子どもを育てる。発達を考えて環境を調整したり作ってあげることが緊急の課題だと思います。それで三つ子の魂ができます。ぜひそういったことを念頭に置いて、小さい子ほどそういったことを学んでくれるので、環境づくりをよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。</p>
事務局 余湖課長	<p>○ありがとうございます。保育に関しましては国の動向等も見ながらというところになります。今、放課後児童クラブのお話をいただきましたが、児童クラブに関しては、この7月に民間委託を開始しております。実際市でも受け入れが困難になった理由の1つとして、支援員不足というところがありました。民間のお力を借りたところ、少しずつ支援員が集まっている状況なので、もう少し受け入れに力を入れることが出来るのかなと期待しているところです。</p>
事務局 橋本補佐	<p>○保育園に関してですが、いつも貴重なご意見をいただきありがとうございます。今日いただきました貴重なご意見を持ち帰り、指導保育士と相談しながら保育の向上に努めていきたいと思ひます。</p>

<p>D 氏</p>	<p>○学校・家庭・地域の連携促進事業の点です。私は、放課後こども教室コーディネーターをやっております。支援員さんも私たちも毎年1歳ずつ年を重ねると、子どもたち、若い子たちはどんどん上がってきますが、見ている人たちが大変な状況になってきているということで、今後担い手不足というところが心配です。そんな中、社会教育課に今配置されている地域おこし協力隊のJさんが11月末で任期が終わるということで、非常に不安です。今まで地域おこしのJさんが入る前は、社会教育課の係長が、全島を走り回って私たちを支えてくれていましたが、Jさんが抜けた後、環境がどうなっていくのかが非常に心配です。彼が入る前は当時5校、1校休止になってしまいましたが、そこから11校まで広がって、これからも多分佐渡島内でそういった環境が欲しいという学校が出てくると思いますが、そのあたりをちゃんと見ていただける職員の方、スタッフの方を配置していただけるようお願いしたいと思います。</p> <p>もう1点、どちらの項目で話してよいか分からなかったのですが、環境という点でお願いしたいことがあります。羽茂から佐渡高校に通うバス利用の学生は、9月までのバス路線の時刻だと、18時まで部活をやりと18時15分のバスに走って乗って、どうにか19時台には返ってくるという生活ですが、10月になって新潟交通の時間が変更になって19時台の最終のバスに乗って帰ってきています。そうすると、家に着くと20時半頃になって、そこからご飯を食べてというような生活です。これ続けるのはなかなか大変だなと思っている中で、親御さんのお仕事が国仲方面の方はその時間に合わせて子どもを拾って帰ってくることが成り立っていますが、そうでない家庭の人たちは、なかなか大変な時間で子どもも親も頑張っているのに、安心安全に帰って来れる環境を整えていただきたいということで、通年18時台のバスを確保するところをやっていただけるとありがたいと思います。佐渡市さんをお願いしてよいのかわかりませんが、路線バスとスクールバスの関係とか、これからいろいろ調整が入るので、そのあたりも考えていただければと思います。</p>
<p>事務局 余湖課長</p>	<p>○放課後子ども教室については、子ども若者課との連携というのも以前から言われているところですが、そこもなかなか実現していないところがあります。今後そういったことも含めて、社会教育課とは話を進めていきたいと思っていたところですので、人員配置についてもこちらからもお願いするという形で話をしようと思います。</p>

E 氏	<p>バスの件は、今ご意見いただいたことを交通政策課のほうに伝え、ぜひ議題に上げてくださいということで話をします。</p> <p>○もうすでに出ていますが、やっている身として実状を持ってお願いしたいことがあります。1つ、子どもの居場所の話ですが、去年1年間地域子ども食堂をやっていますが、資金関係もありまして、やりたいという相談も資金から入ると言っていました。例えばやってみたい・やりたいと言っても、お金を自分たちが自腹を切ってやらなければいけないのかと考える方も非常に多くて、せっかくやりたいと言っているのに、そのチャンスを選ぶことも出来ないというのも出ていますので、もし1回でもやってみたいと使いやすいものを作ってもらえると、非常に助かると思います。大体佐渡でやると、寄付で野菜などは入りますが、お肉やお魚などは買うしかありません。その中でそういったものを少しでも補助してもらえようなもの、あとは集落などでやる場合、集落の理解を深めてもらうために一緒に動いてくださるような方がいらっしゃると、もっと子どもの居場所が増えると思います。</p> <p>あともう1つ、私は放課後こども教室をやっていますが畑野地区でやっています。畑野地区は幸い児童館がありますので、遅くなったとしても子どもたちは児童館に行くことができます。それがもし、バスに乗ることはできないので、もし児童館が放課後児童クラブになってしまった場合、そこには参加したいけれども、おうちの方が迎えに来られない場合、その子たちが受けることができなくなってしまいます。そういった場合の受け皿的なものをどうしたらよいのか考えていまして、児童館の役割は18歳までが利用できるものだと思いますが、これが全部なくなってしまおうとどうなのかなと非常に不安です。なぜ佐渡では児童館がなくなってしまおう状況になっているのかお聞きします。</p>
事務局 余湖課長	<p>○居場所づくりに関しましては、以前は補助金がありましたが、なかなか使い勝手が悪いというところで、団体から手があがらなかったと聞いております。活動の支援というところでは協力していきたいと思いますが、こちらとしても、どういったところから財源を持ってくるか等をいろいろ検討しながら、また何とかできないかと思いながらここまで来ている状況です。補助金に関しましては、先ほど言った通り使いやすい・にくいというものもありますし、すぐにお答えできるものではないものですから、もう少し私共のほうで検討させていただきたいというのが1つです。</p> <p>児童館に関しましては、保護者が放課後児童クラブを希望しているとい</p>

うのが私共のアンケートで調査した結果です。ちのわの家は今回加茂の放課後児童クラブになりましたし、畑野児童館が1つ残っておりますが、学童化を希望される保護者さんもいらっしゃる。そういったところでどちらのほうที่เหมาะสมなのか考えて児童クラブの整備計画を立ててきたところです。児童館については、18歳まで誰でも使えるというところで、いつでも誰でも行けるというところはとても良い施設ではあります。ですが、やはり今働くお母さんが増えている中で児童クラブがどうしても外せないというところです。私たちは児童クラブの整備の方に力を入れているところですが、畑野についてもアンケートをとり、協議会なども開きながら学童化に向けて進めているところであります。受け皿というところでは、畑野だけでなく他の学校も同じことだと思えますが、学童に行っていないお子さんと行っているお子さんが何らかの形で交流できる場も必要ですし、そういうところで子ども教室が重要なものになってくると思いますので、そのあたりを考えていきたいと思えます。

B 氏

○今、C氏もおっしゃっていたように、地域における子育て支援、本当に大切だと思います。幅広い年代が見ることで、その中で毎週土曜活動というものを個人的にやらせてもらっています。真野でやったり、両津まで出張して海水浴に連れて行ったり、学童等ではできないような昔の遊びを実施しています。今年の大きなイベントはいかだを作って乗せて喜んでもらったり、ザリガニ釣りに行ったら10年前は釣れたけど釣れなくなっていたり、その時々でいろいろなことが体験できます。子どもたちが来るまでに竿を準備するとか、竿の準備もそのへんの土地の竹を勝手に使い、『PTA 危険あそぶな』と書いてある看板の近くでやったりして、地域のおじさんに文句を言われ、そういう姿も見せつつ、生の地域を見せるというのもいいのではないかと思います。何を言いたいかという、他にも個人レベルでやりたい人を探してもらいたいです。一人でやっていると感じて、今は毎週新潟からわざわざ来てくれる大学生と一緒にやっていますが、単体だと何か寂しいです。なので、同じように個人レベルで行政や組織ができないような生の遊びを子どもたちに与えられる人を探していただきたいです。

事務局 余湖課
長

○私達もそういった人を常に探しているところです。どうしても官がやることというのは少しお堅かったり、規制があったりというところで、なかなか自由な発想が難しいところがありますので、皆様のやわらかい

C 氏	<p>発想というのはありがたいと思います。何らかの形で私たちも協力を考えていきたいと思いますので、いろいろな人材の発掘にぜひご協力いただければと思います。</p> <p>○先ほどから出ている、学校・家庭・地域の連携促進事業の地域とともにある学校づくりのお話でもありましたが、Jさんのお話を聞く機会があり、一生懸命作り上げてきたものがここで途切れてしまうのはすごくもったいないと思いました。もうすぐ任期かもしれませんが、彼を活かしてほしい。素晴らしい人材だと思っています。今、B氏からもお話がありました。子どもたちをまとめて勇気づけてくれる存在。家庭だけでは子どもが育たない時代だと思います。小児科を24年やってきて、そのお母さんにはお願いはするけど家庭だけで何とか解決してもらいたいと思っても難しいです。ずっと声をかけ続けても動けない。環境を変えないとうまく育っていけない。引きこもってしまうケースが何人かあります。何度もB氏ともお話していますが、その子たちの寮みたいな形で生活を学べるような場所が欲しいと。家庭ではなかなか難しい子どもがいて、引きこもりによくなります。ライフスキル、生活の技術、主にコミュニケーション能力や社会関係の作り方を家庭だけで何とか頑張ろうと言っても動かないです。そこにあって、アウトリーチして、少しずつ誘い出して、一緒にやろうよと言って、それ面白いねと気づいてもらわないと子どもが動けない。家庭にだけ任せてはならない時代だと痛感しています。今回はJさんのもったいないということを印象に持ちましたので、何かできればありがたいと思います。</p>
A 氏	<p>○先ほどのB氏の話のような、地域の人に関わって子どもにいろいろな体験をさせるというプログラムについては、公民館が主催でキャンプ教室を再開しました。この前は相川と佐和田でキャンプをしましたが、その時、子どもと親、地域のサポート、多分公民館職員の方だと思いますが、皆さん生き生きとしていました。あれはよい体験だと思います。そういう公民館事業の中でこういったものが組み込まれることによって、地域と子どもの関わりができてくると思うので、B氏も公民館に「こういう事業をやりたい」と声を掛けていただくとよいと思います。</p> <p>それから、地域育ちの施策の5の中に、企業が子育てに関わるがあります。この前の下越地区会場の県社会教育委員会の研究大会、B氏も発表者の一人になって参加していただきましたが、島内の特定企業が課題を抱えている子どもたちを雇って、コミュニケーション能力を高めて</p>

	<p>地域と関わり、そういう成長している場面を作り出しています。企業も地域づくりを積極的にしたいと関わってもらえるようなプログラム、これは可能だと思います。そういう企業について顕彰し、増やしていく、そういうことがあれば地域の関わり方がもっと豊かになってくると思いますので、できたら項目にさせていただけたらありがたいと思います。</p>
B 氏	<p>○協力企業も人探しと同じように足で稼がなくてはいけない。あと、そのキーパーソンの理解があれば企業が動くというのはある。先ほど言ったことを整理すると、C氏が言った自立援助とか、そういったものに繋がるのではないかなと考えております。</p>
事務局 田村センター長	<p>○企業との関わりというところで、子ども若者相談センターでも若者の就労支援というところで足を運んでいます。社会に出られない若者は、当てはまった仕事ではなかなかうまく適応することができず、B氏にいつも相談させてもらって、その子に合った仕事を作る、その子に合った仕事を提供してもらえる企業と繋がれるようにということで、うちの就労支援専門員もこまめに足を運んでいます。その中で、C氏が、ずっと不登校から引きこもりになっていた男の子に「25歳まで引きこもっていて良い」と言ったのです。そしたら、その子が25歳の時に子若センターに来てくれて、C氏が「25歳まで引きこもっていて良い」と言ったから来ましたと。そこでそのご縁をきっかけに、B氏とも繋がれて、社会とも繋がることのできた若者もいたので、またみんなで知恵を出し合い、情報を共有し合ってやれたらいいなと思っています。</p>
D 氏	<p>○先ほど、C氏が援護射撃をしてくださったJさんの取り扱い、是非よろしくお願いします。</p> <p>もう1点、先ほど公民館の話でキャンプの話が出ました。私は公民館支援隊というのをやらせてもらっていて、キャンプを去年と今年2年連続で小学生と一緒にやらせてもらいましたが、去年南部のほうは爪の沢キャンプ場を借りて、キャンプと言いつつログハウスの中で実施しました。今年は爪の沢が使えず、素浜キャンプ場だったのですが、猛暑だったので急遽羽茂公民館に戻って、冷房が効いている中快適にキャンプという名の一晩親と離れて泊まるというワクワク体験をさせてもらいました。去年、爪の沢が良かったという印象で、急遽キャンプ場ではなく公民館でももちろんよかったです。せっかくの機会を計画していく中で、良いものは残してほしいと思います。最後に爪の沢を復活させてほ</p>

<p>事務局 余湖課 長</p>	<p>しいというお願いです</p> <p>○ありがとうございます。ご要望は担当課へ必ず伝えるということで承ります。</p> <p>(4・配慮を必要とする子ども・家庭への支援体制づくり)</p>
<p>A 氏</p>	<p>○この中で漏れていると思うのはヤングケアラーの話です。実際どれくらいいるかわかりませんが、もしいたらヤングケアラーには十分なケアラーへのケアをやっていただきたい、サポートしていただきたいと思いますので、その項目もどこかに入れていただくとありがたいと思います。</p> <p>アビューズ(虐待)の問題ですが、形に現れないアビューズが結構あって、特に我々の世代の親たちはひどいところがあって、愛情があればすべて良しという間違っただ発想をする者がいて、愛情過ぎて過干渉になってしまう。それから、ネグレクト、見えないものに対する教育、虐待とは一体何なのか、しっかり社会教育プログラムをしないと、間違っただ子育てが将来ツケになってしまう可能性がある、そういう面でその教育はとても大事だと思います。防止対策のところは教育をしっかり入れていただきたいなと思います。</p> <p>それと障がい者、広い定義で考えていく必要がある。これも社会教育でしっかり理解していく必要があると思います。</p> <p>それと、異文化共生社会の話です。外国の方が現在200名以上いらっしゃいますが、多国籍の人とどう付き合うかについて、佐渡は可能性が非常に高く、同じ面積での新潟と佐渡では全然扱いが違って、1人1人顔が見える社会があって、その中に外国の方が住んでいる、そういうメリットがあります。観光通訳士や英語塾講師等のグループが中心になって佐渡にいる多国籍の方々の日々ケアをし、親も子もケアをし、その人への社会参加も促しています。異文化の方々との集いの会をよくやっています。その集いの会は振興局の予算を使わせていただいて、公民館活動の中に取り入れてあって、佐渡ならではの1人1人顔が見える地域としての佐渡の良さの中に特徴を活かした外国にルーツのある子どもたちへの支援というのがかなりできていると思います。ですから、佐渡市のプログラム+αで何ができているか自覚していただくとよいと思います。これはお褒めの言葉です。</p>
<p>事務局 余湖課</p>	<p>○ありがとうございます。今おっしゃっていただいたヤングケアラーや、</p>

長	<p>第2期の計画以降どんどん新しい課題が出てきている状況です。こういったものについては、第3期子ども・子育て支援事業計画について検討する際に新しく取り上げていきたいと思いますので、皆様方のご意見をお伺いしながら作っていききたいと思います。</p>
E氏	<p>○母子生活支援施設事業というところで、少し前に知り合いにDVでこちらからお世話になるにという話があった時に、夫がすでに逃げ場所を知っているということがありまして、そこに行けなかったという事が2件ありました。島内でいろいろな情報が流れていて、そういった場合どこに行くという情報を相手が知っている状態でこれが成り立つのか、非常に危機感を感じたのですが、そのへんはどのようにされているのか教えてください。</p>
事務局 田村センター長	<p>○今のお話はDVによる緊急避難ということでしょうか。DVによる緊急避難の場合は、一時保護所となるところは新潟県の女性相談所の方で委託を受けて一時保護所となるものがあります。一時保護所は、佐渡が危険な場合は佐渡だけとは言わず、県内に数箇所ありますので、その人の状況をアセスメントして、その人の安全に配慮をして計画を立てます。また、支援の計画、避難の計画、自立支援に向けての計画を立てますので、どこがそういった計画を立てるところであるかは言えませんが、そのようにして務めているところです。</p>
C氏	<p>○子どもの数はどんどん減っていますが、配慮を必要とする子どもは増えている。この間小中学校にて、通常学級で発達障がいを疑うような子どもが何%いるかというような調査を実施しました。前の調査の時は6.5%でしたが、今回8.8%でした。通常学級で発達障がいを疑う子ですから、最初から発達障がいの子は別に特別支援学級に入っているの、1割～2割が配慮の必要なお子さんと考えてよい時代なのだと思います。配慮を常識にして、先ほどのペアレントトレーニングなど具体的な関わり方がありますので、ぜひ子どもと接する人は、すぐに役立つ具体的な技術を身につけていただく方が、将来的な虐待予防にも繋がると思います。みんなが安心してその子に配慮ができて、将来的に発達障がいの虐待解消することができる。小さければ小さい時ほど介入がうまくいくはずで、なので行動療法を基本にしたいろいろなやり方があります。そういったことを身につけている方がたくさんいらっしゃるの、ぜひ保育園を中心として、社会で子育てすると宣言したわけですから、</p>

<p>事務局 余湖課 長</p>	<p>みんなでそういったことが常識になるくらいに適切な介入、関わり方を身につけていただけると子どもが安心して育てる島になると思います。あるものは使ってほしいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>○ありがとうございます。配慮を必要とするお子さんが増えているのは私共も実感しているところですので、そこで私たちに何ができるかをお話しながら進めたいと思いますので、ご協力よろしく願いいたします。</p>
<p>G 氏</p>	<p>○C氏から通常学級にいる発達障がい割合について8.8%だと話がありました。私たちの学校は過去2年で10人ずつくらい増えて20人、3年前と比べて在籍数が増えています。県によると、特別支援学校への進学数はもう少し増えるのではないかという見込みがあります。それだけ特別支援学級も含めてニーズが高いのかなと感じています。ここで話をすべきかわかりませんが、私共の学校にもいろいろ個性のあるお子さんが在籍していますので、ここにいる皆さんにもいろいろ個別に深く支援していただいている方々がいると思います。1つ教育委員会から支援を受けた例が今年あり、非常にありがたかったことがあります。私たちの学校は県立なので、佐渡市立の学校とは直接的な繋がりはありませんが、佐渡にいる子ども達ですので、例えば子どもたちの移動に関してはスクールバスを利用させてもらえないかなと思い、登下校は難しいですが、通常の教育活動の中で、例えば近くの学校との交流する場合や、島内の特別支援学級の子どもたちとの交流する場合などいろいろありますが、佐渡市の学校との交流に関しては、今秋から認めてもらうことができました。昨年度まで何度かお声を掛けさせていただいたところ、今年この段階になってありがたいお話を伺いました。いくつか条件はありますが、子ども達も楽しみに他校の子ども達と交流をしています。今後も予定していますが、それが1つ良かった点です。</p> <p>あとは冒頭の話になりますが、在籍の子どもが増えているので、ご家庭の保護者の皆さんが、放課後または朝、子どもたちの居場所というところで放課後デイサービスなどの充実について、新潟市ではいろいろな事業所が入って競争していますが、佐渡市は比較的まだおとなしいような感じで動いていますが、そのあたりもう少し増えるような働きかけができると保護者も喜んでくれるのでは無いかと感じています。事業とは関係ないかもしれませんが、以上です。</p> <p>事務局 余湖課 ○ありがとうございます。今放課後デイは新しく出来たばかりの施設で</p>

長	<p>す。かなりの人気で保護者から「利用したいけどできない」というお声をいただいております。社会福祉課と協議しながらもう少し何とかならないかと私たちからもお話をさせていただいているところですので、今後はこちらからも要望していきたいと思います。</p>
E 氏	<p>○大人が見てという観点ですが、LGBTQ も入れるべきではないかと思えます。LGBT の活動も若干関わっておりまして、居場所という意味で、そこで見る景色は、子ども達はすんなり何事もないように受け入れるのですが、大人のほうが非常にオーバーアクションと言いますか、リアクションが強すぎて、LGBTQ があるんだということを大人がなかなか分からない、でもその大人が分からないと子どもを守れないというところで、LGBTQ に関しても入れていただけるとよいと思えます。</p>
事務局 余湖課 長	<p>○ありがとうございます。第3期子ども・子育て支援事業計画については国所管がこども家庭庁になって、こども大綱というものを発出していく予定でいます。どういったものを計画したらよいのかというところについては、こども大綱を参考にしながら進めていきますが、第2期には載っていなかったヤングケアラーや虐待の部分、あと LGBTQ など新たな部分を精査して盛り込んでいかなければいけないと思っています。このあとまた担当の説明があると思いますが、第3期の計画を組んでいく中でどんなものを盛り込んでいったらよいか、そういった部分も皆さんにご相談したいと思いますので、ご意見をいただけたらと思います。</p>
B 氏	<p>○この部分はかなり力を入れている部分ですが、例えば小学6年生だった子が19歳になり引きこもりました。中学3年生の時に知り合った車をボコボコにした女の子が母親になりましたとか、いろいろな例を長い間見てきて、どんな支援が必要かというのは大体分かって来ました。それを行政だけに任せてやってもらうのはすごく大変なことです。民間と組んでいろいろなものを作っていくという姿勢が佐渡だったらできると思います。それと、A氏と一緒にいった下越地区会場の県社会教育委員会の勉強会で長岡の人が言うておりました。佐渡とは言いませんでした。細かいところまで一人一人を見てくれる地域がうらやましいみたいなことを言うておりましたし、それが佐渡の強みだと思います。子ども達も少なくなっていますし、もっと手厚く見てあげる環境を官民両方で作っていったらよいのではないかと思います。</p>

事務局 余湖課 長	○ありがとうございます。ぜひ今後ともご協力をお願いいたします。
C氏	○先ほど G 氏から交流の話が出ましたが、どんどん子どもの数が減っています。内輪の話になりますが、今年は今のところ年内の分娩数が200くらいになりそうです。そこには里帰りがいますので、1/3か1/4は里帰りになります。10%くらい減ると思います。1学年多くて200人ということになります。小さい時は1人1人丁寧に見てあげる、そして大人から学ぶのですが、9歳10歳を超えると、子どもは仲間から学ぶ必要があります。ぜひ人数ということを考えてあげたいので、将来的に私は極端なことを言えば中学校が2つ、小学校が4・5、高校が1つ、あとは分校のような形で繋いで、交流があってという状況を特に10歳以上に関しては作ってあげたい。そうしないと、社会性やコミュニケーション能力を自然に身につける機会を奪ってしまうことになると思います。子ども同士の子どものから学ぶ、子どもだけで学び合うチャンスというものを大事にしてあげたいと思っていますので配慮をよろしくお願いいたします。
事務局 余湖課 長	○ありがとうございます。子ども同士の交流ということで、学校を超えての交流や公民館活動など学校活動に期待するところでございますので、いろいろなことがやって行けたらいいと思います。
C氏	○今後減ると言ってしまいましたが、子どもが減るからといって保育園を減らしてほしくないです。担当の方が0歳だと1人当たり3人、足りません。3人で1人を見てもいいくらいです。子どもが減るからといって職員を減らすことなく、みんなで子ども1人に無条件の愛情をかけてあげてほしい。小さい時に無条件の愛情注ぎ抱き癖を付けていいです。9カ月になったら一人で動き始めるので、そしたら配慮が必要ですが、乳児にはとにかく抱き癖を付けるくらい抱きまくってみんなでかわいがる。無条件にかわいいかわいいと言ってくれるおじいちゃんおばあちゃんがいればいるだけよい。保育士の数を減らしてほしくないです。ぜひよろしくお願いいたします
H氏	○今の C 氏の話はすごく理想論であって、保育園の運営は、国の配置基準があり、0歳児3人に対して1人の保育士、6人に対して1人ですが、新潟県は手厚く3対1というので補助金を出して、なるべく1歳児も3対1

になるようにやっていきたいのですが、実際保育士が足りません。実際僕の園は定員30名で25人ですが、0歳児が当初2名でしたが、公立の保育園は今頃になると保育士がいないので、0歳1歳児が入りたいと言っても入れません。結局うちだけ空いているので、ここ10年くらい9人まで見ていました。9以上いると看護師を付けないといけないというのがあり、看護師の募集を出しても全然来ない。一応佐渡市は待機児童がいないとなっていますが、どこにも入れないような子が出そうになりました。また、ずっと9人で来ていた0歳児が去年は1人でした。今年も1歳児が1人なので、このまま3・4・5歳になった時に保育園の行事が成り立ちません。令和2年に吉井保育園もそのくらいの人数になるので統合したいという案を出したのですが、単園だけで進められないので総合計画で考えますと言われたまま3年間放っておかれ、一応来年度協議に入ることとなっていますが、早くも住民の人から反対の意見が来ていますと言われて進められない。地元の保育園を無くさないといけない。担当の人もそういうことはやりたくないみたいで、吉井小学校があるから保育園は絶対必要ですと言われて、向こうも年長さん男の子1人だと遊び相手がいません。僕のところも2・3年前に年長児男の子1人というのがあり、ようやく2人になって仲よく遊べました。

稲鯨保育園も20人切っていますし、そういう状況がある中で、地元で学校、保育園を残したいという気持ちもわかりますが、国が子どもまん中社会となった中で実際どうなのか。親は車に乗っていけば人数の多い保育園に行けて子どもは遊び友達がたくさんいますが、地元に残したいという遊び相手もない保育園に通わせたいのか。保育士がいないというのがすごくネックで、5歳児になると30人に1人、3歳児は15人に1人になりましたが、0歳児の3人に対して1人となると、初め1人だから保育士も1人、年度途中で2人3人4人になった時に保育士がいなくて見れない。最初から保育士を雇う予算もない。そういう難しい問題もあり、制度的に難しい。現状保育士も看護師もいない難しいというのが施設の現状です。

それと、民間の施設代表で初めて来ましたが、今回のあいかわこども園、通常保育事業は◎になっていますが、建設費が非常に高い。皆さん知っていますか？と質問に書いたのですが、入札が適正に行われているので大丈夫ですということですが、全国平均の平米単価数というのがあり、当時平米単価37万円、あいかわこども園880平米、単純に今計算すると大体4億円。あいかわこども園6億7000万円です。どうしてそうなるのか、まともな答えも返ってこない。うちも今吉井保育園と

	<p>の統合案で434平米、50人定員で令和5年5月に見積もりを出しましたが、1億9000万円です。あいかわこども園は50人定員で6億7000万円ですので、民間施設を運営していると、どこの市町村に行っても言われます。もっとひどかったのが両津東保育園ですが、150人定員で12億5000万円使っていますが、昨年妙高市160人定員で7億円で建っています。民間で建てるともっと安くて、平米単価数×平米数なので、佐渡市の保育園異常です。誰もチェックする機能がない。市長に言っても公で建てるとしょうがないと片づけられました。妙高市公立ですが、160人定員7億円で建てています。</p>
<p>事務局 余湖課長</p>	<p>○ありがとうございます。今お話にあったとおり、保育士は有資格者が現状不足をしている実状です。私たちも保育の質を高めるには一定数の確保が必要だと思っていますが、有資格者の確保が難しく、対応を無資格者に頼っているところもあります。保育専門学校もなくなるという中で、どうやって有資格者を確保していくのか喫緊の課題になっております。島という特性もあり、島外から連れてくるのも難しい状況ではありますが、島外の学校を周りながらなんとか確保できないか検討しているところです。建設費の関係は以前にもお伺いしておりましたが、これから統合などいろいろな計画を考えていく中で参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>【第3期佐渡市子ども・子育て支援事業計画について】</p>
<p>事務局</p>	<p>○第3期佐渡市子ども・子育て支援事業計画について、目的、事業内容、スケジュールについて説明。</p>
<p>A氏</p>	<p>【質疑応答】</p> <p>○令和5年度のスケジュールについてはわかりましたが、令和6年度か令和5年度の末までに、このような調査結果をこのメンバーに対して報告していただける機会があるのか。そして、それを活かした上で、次の事業計画に移る、つまり令和7年度から始まるわけなので、令和6年度中にいろいろな手順を踏んで、作っていくと思いますが、その時にこの委員会に付託してもらっていろいろな意見をまとめていけるものが、例えば環境の第2期計画においては特別委員会を設けてタスクフォースを設けて環境審議会に対して議論しました。それから、社会教育の第2期の計</p>

<p>事務局 鍵谷係長</p>	<p>画においても、社会教育委員会が一緒になって独自の佐渡市らしい案を作りました。つまり、手作りの佐渡らしい課題について委員が納得する形で策定を作りました。そういう意味では、令和6年度にそういうスケジュールを設定していただけるのかお聞きします。</p> <p>○令和6年度に関しましては、このような会議の場を年4回持ちたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いたします。</p>
<p>I氏</p>	<p>○本計画策定業務のところで、株式会社スピードリサーチさんが令和5年度にニーズの調査をして、調査の結果を納品して、6年度に計画の策定とありますが、この会社が計画のたたき台か何かをデータを基に作るのか、佐渡市さんと協力して作るという意味なのかお聞きします。</p>
<p>事務局 余湖課長</p>	<p>○先ほどのお話のとおり、データに基づいてある程度一定の案を作っていたいて、そこに佐渡市と皆さんからご意見をいただきながら肉付けをしていく作業を来年度に予定しております。</p>
<p>A氏</p>	<p>【議事終了】</p> <p>【その他】</p> <p>○島の仕組みと島らしさ 紹介</p>
<p>事務局 余湖課長</p>	<p>○佐渡市子育て拠点エリア整備について説明</p> <p>【質疑応答】</p>
<p>A氏</p>	<p>○大変素晴らしいと思いますが、児童書の中に多国籍の人向けのものも多少考慮するようなプログラムや翻訳機能の付いたものがあればもっとよいかと思います。</p> <p>それから、ここに関わっている人から強い口調で言われていることがあります。そして、図書スペースが代々の書庫を置くスペースがないと。そして4階に置いたらどうかという話がありますが、4階は重量の関係でそんなに置けないという話もありますが、ここは少し補強すれば物理的に可能だと思いますが、これは予算に関わる話なので難しいと思いますが、しかし強い要望があることは多くの方が知っているのです、そこは無視し</p>

事務局 余湖課 長	<p>ないでいただきたいと思います</p> <p>○ありがとうございます。図書の選定の部分については、図書館のほうで進めているところですので、こちらのご提案についてはお伝えいたしますし、図面の2階部分を見ていただくと、ピンク色に塗られているスペースの中の左側上に閉架書庫となっている部分があります。そちらが元々サービスセンターで使用していたある程度の重量をおける書庫となっており、そちらを活用できるようになりましたので、図書館の本は全部移せるということで進めております。</p> <p>またご意見がありましたらよろしく願います。</p> <p>【閉会】</p>
--------------	---